

JAXA の川口淳一郎教授が資料 41-2 (ISECG) を説明した後、下記の通りの質疑応答が行なわれた。(ISECG は GES の前回会合(イタリア)で発案された協働グループの活動を定義するための集まりで、今回が第 1 回としてベルリンで開催された。今後は GES に代えて ISECG が開催されるらしい。)

松尾: NASA の考え方は、相変わらず月は皆でやりたいが、相談は個別にやりたいと、平たく言えばそう云う事ですか。

JAXA 川口: NASA の姿勢は其の様である云う風に理解をしております。ただ、年に二回程度、マルチラテラルな会合には応ずると云う事で御座いまして、今回 11 月の此の後は、COSPER のカナダに合せてと云う処は NASA も合意して居る処で御座いまして、もう一年先に日本で開催するという可能性は勿論ございます。まあ、其の辺りは、今後国際協働の協議を通じて調整して参りたいと思っております。

池上: 其の議論になった来年度の活動の、優先順位付けと云うのは、具体的には何なんですか。議論するものを当然決めようって云う意味でのプライオリティ付けですね。具体的にアクションと云うんじゃないで。

JAXA 川口: 此れは寧ろ BLR が議長機関であった訳ですが、一寸我々にとって意外だったのは、各国間が謂わばボランティアで活動して、全体としての国際協働を進めてる処で御座いまして、今池上委員から仰られました様に、JAXA としても或る種の貢献をして行こうと云う活動だったんですね。ところが DLR の議長は、どう云う訳か、プライオリティ付けを

【議事(2)】 国際宇宙探査協働グループ (ISECG) 会合等の結果について

して、プライオリティの低いものの活動と云うものと高い活動を識別しよう云う風な議事の進行が行なわれ掛かったので、其れは矢張りおかしいのではないかと云う事を JAXA と他の機関からも意見が出まして、改めて此れを各機関で貢献ベースで活動して行く事ですねと云う確認をした処で御座います。現在ミニッツの整理の仕方については、調整を続けて居ります。来週電話によるテレビ国際会合が開催されることになって居ります。

池上: 其の優先度付けと言うのは例えばこう云う事なんですか。火星にするか月にするかとか、その辺までの話になりそうですか<sup>1</sup>。

JAXA 川口: 現状、此の国際協働メカニズムは、矢張り一番先にあるのは、各国がどう云う能力、ケーパビリティを持っていて、各国がどう云う探査に対してインタレストを持っているか、こう云う情報の交換がまず先に為されるべきである云うのが、随分遠回りな、まあ正しいやり方なのかも知れませんが、

---

<sup>1</sup> そう云う話ではないと思う。ISS は何度も書き直しがあつたものの、全体の概念を決め、其の構成モジュールをどの国・機関が担当するか配分し、夫々が詳細設計に繋げていったのであるが、GES では其の反省を踏まえ、最初システム・オブ・システムズと表現したような、各国・各機関の自主性を重視するという考えで進められている。其の為の調整の約束作りをする為のワーキンググループを作ったと云う、前回会合の報告が有つたように記憶している。火星にするか月にするかなどと云う具体的な話は、ずっと先の話であろう。

そう云う情報を構築することを優先しようとするのがヨーロッパ側の方針で御座います。従いまして、後ろの方に活動案に出てまいります、名称をインターセクトと書いて御座います、インターナショナル・スペースエクスプロレーション・コーディネーション・ツールと云う名前で御座いますが、此れが先程申し上げました、ニーズとシーズ、ケーパビリティとインタレストの交換をする、或る種の情報交換の道具を作りましょうと。で、其の活動が今は優先度が高く設定されております。そう云う意味では、国際協働ミッションを遂行して行くと云う事に関しては、直接的な活動ではないので、少し遠回りな活動では御座います。

松尾: ISRO は近くまで来てたのに、こっちに出なかったって云うのは、何か理屈があるんですか。日にちでもかぶってんのかと思ったら、日にちもずれてますね。何か。

JAXA 川口: 実は、ベルリンに NASA の代表団が参加している訳ですが、11月8、9の一般向けと言いますか、其の、カンファレンスの方に向けて送ってきたメンバーも居ります。例えば、科学局のデュピティ・アソシエイト・アドミニストレータとかと云うのはそうなんですけど、ベルリンに来る途中にインドに立ち寄って来ております。探査局のアソシエイト・アドミニストレータとかもそうなんですけど。此れは情報は余り正しくはありませんが、事実として分かっている事だけ申し上げますと、其の後、FSAとISRO間で、月探査に関する協力が発表されました。其れと、NASAがISROに寄って来た事と、どう云う関係があるかと云うのは憶測以上の事は解りか

【議事(2)】 国際宇宙探査協働グループ(ISECG) 会合等の結果について

ねます。

池上: APRSAF で忙しかったんじゃないんですか。此の直後ですよ。

青江: 良く解らなかつたんですが、此の調整グループで以って、5頁の協働活動欄にあるような、こう云う活動を、「此のグループの活動としてやって行きましょう。」と云う事な訳で。

JAXA 川口: そうです。はい。

青江: そうした時に、例えば、将来の月無人探査協働の仕組みと云うのが一つのあれで挙がってますね。此れはどんなものをイメージしてるんですか。

JAXA 川口: まあ、色んな事が御座いますが、例えば、データの利用と云うのが一つ御座います。着陸地点に関わる詳細な地形データのデータ交換でありますとか、無人探査機に外国機関の観測器を搭載して表面に展開するとか、その様な事が色々議論はされております。

松尾: (マイクを通さなかつたので、正確に聞き取れなかつた。)

JAXA 川口: はい、此れは、精神の一番のスタートポイントは、最近はその用語は使われなくなって居りますが、システム・オブ・システムズとかプログラム・プログラムズと云う形で、各国の活動のオートノミーは保存しつつ、全体として共同で進めて行こうと云うのが、この ISECG では GES の基本的なスタートポイントで御座います。従って、個々の計画について、直接バータでありますとか、協働の協力関係の構築と云う話には中々入れないと云うものが御座います。まあ、其の点は NASA の考えている、バイで進める、二国間協議を

中心にと云う様な方向とは、少し、あの、ベクトルと言いますか、進むペースが違うのかと云う風な理解をしております。

池上: JAXA の戦略。JAXA の戦略って言うと言い方おかしいかも知れませんが<sup>2</sup>、世の中基本的にはロケットを持ってる所はみんなバイでやりたがりますよね<sup>3</sup>。マルチラテラルって非常に難しい。どちらかと云うと JAXA はそうじゃないと云う、寧ろマルチラテラルな形でやってきた APRSAF そう云う感じですね。其の辺はどうなんですか。其れはやっぱり非常に難しい話なのか、矢張りバイでやろうという中でマルチラテラルって事を言い続けるって事が、JAXA のプレゼンスを上げる上でプラスになるのか、少なくとも個人的にはどんな感じをお持ちですか。

JAXA 川口: 個人的には、マルチラテラルと云うのは難しいんです

<sup>2</sup> JAXA が戦略を纏めようとしたら、其の前に宇宙開発委員会が文科省が方針を出さなければならない。会社の中では、社長の方針に従って、各部、各事業部が戦略を検討する。其れが社会通念である。其れを、宇宙開発委員が JAXA に質問しているのでは、JAXA が勝手に戦略を作れば良いと言っている様なものである。

<sup>3</sup> 「……よね。」と同意を求めるような発言であるが、川口先生は困ったのではないだろうか。何で二国間でやりたがるのか、説明が全くないので、池上委員の頭の中で分析をした状況が全く伝わってこない。ロケットの技術は貿易管理令の対象技術が詰まっているので、技術援助の際には相手国に応じた取り決めを行わないと、国益に叶ったやり方にならないことは理解できる。しかし、其の事で全ての国際調整が影響されるとは考えられない。

【議事(2)】 国際宇宙探査協働グループ(ISECG) 会合等の結果について

が、進めて行く方向かなと思って居ります。特に、例えばアジア圏であり、そう云う領域で我が国は一定の科学技術の先進国として、一つのステータスを示して行く必要があるんだろ<sup>4</sup>うと思って居りますので、此れは我が国と先進国同士だけの連携で進むのではなくて、周辺国或はグローバルな共同作業で進めることが出来るならば、其れが良いのではないかなと。

青江: 一つその努力とアクティビティは、乃至、其のトータルのアクティビティの中における日本がイニシアティブを発揮して、のみならずもっと沢山巻き込んで行くと言いましょか、其れはもう絶対怠ってはいかんと思う<sup>5</sup>んです。どの程度でそのトリック(?)が上がるかと云う事については余り考えずに、兎に角此のパワップ(?)を使った活動と云うのは積極的に対応すべきだと思ひましてね。長期的に見た場合は。

JAXA 川口: 其の観点で、事務局にも名乗りを上げて居る処で御座います。

松尾: 此れは懇談会のテーマにもなって居りますので、此処での議論を此処までにしたいと思ひます。

<sup>4</sup> 「ステータスを示す」だと、中国の「覇権を取る」考えとの差が小さいように思う。宇宙法にある「宇宙は人類共通の財産」と云う捉え方は、国連独特の発展途上国の不満解消施策であるから、其処まで行かなくても、「一定の貢献は社会的責任」と云うのでは如何だろうか。

<sup>5</sup> 此れも、もう少し説明が欲しいし、イニシアティブは言い過ぎ。